

シンポジウム開催案内

公開シンポジウム

「これからの歯学・歯科医療における人材育成」

日 時:平成27年2月7日(土)13:00~16:00

会 場:昭和大学旗の台キャンパス16号館
2階講義室

参加費:無料

13:05~13:45 「これからの歯科医療を支える歯科医師の育成について(仮題)」 座長 佐々木啓一
窪木 拓男先生(岡山大学歯学部長・教授)
中島 信也先生(日本歯科医師会常務理事)

13:45~14:25 「歯学部教育と臨床研修の連携(仮題)」 座長 安井 利一
寺門 成真先生
(文部科学省高等教育局医学教育課長)
鳥山 佳則先生
(厚生労働省医政局歯科保健課課長)

14:25~14:40 質疑応答

14:50~15:30 「歯学における大学院教育・専門医教育のあり方(仮題)」 座長 木村 博人
丹沢 秀樹先生
(日本学術会議第二部会員、日本口腔科学会理事長、千葉大学大学院医学研究院教授)
永田 俊彦先生
(日本歯周病学会理事長、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授)

15:30~16:00 全体討論

歯学協ニュース No.3 (発行日:2014年12月24日)

会員学会の総会・学術大会の日程 (平成27年4月の予定)

日本顎口腔機能学会

第54回学術大会

日程:4月18日~19日

会場:鹿児島大学郡元キャンパス

学習交流プラザ

大会長:宮脇 正一

日本歯科理工学会

第65回春季学術講演会

日程:4月11日~12日

会場:仙台市情報・産業プラザ

大会長:鈴木 治

学術大会事務局:東北大学大学院歯学研究科

歯科生体材料学分野内

第65回学術講演会準備委員会

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

TEL:022-717-8317 FAX:022-717-8319

E-mail:jsdmd65 dent.tohoku.ac.jp

日本デジタル歯科学会

第6回学術大会

日程:4月25日~26日

会場:福岡国際会議場

大会長:佐藤 博信

事務局:口腔保健協会内

〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSDビル

電話:03(3947)8891

E-mail: gakkai18@kokuhoken.or.jp

URL:<http://www.ucjds.jp/>

特別会員 東 みゆき教授



★この度、平成26年10月1日より第23期日本学術会議第2部会員として選出され、特別会員として本協議会に参加させていただくことになりました。私は、昭和59年に東京医科歯科大学歯学部を卒業後、約12年余り第2口腔外科学(現顎口腔外科学分野)で臨床に携わった後、口腔外科および歯科臨床を離れ、順天堂大学医学部免疫学教室および国立小児医療研究センター(現国立生育医療研究センター)において、免疫学分野で研究をし、平成12年より、東京医科歯科大学・大学院歯学総合研究科・分子免疫学分野教授として基礎医学の立場から大学で教育と研究に携わっております。★口腔外科における癌免疫研究を通して、基礎と臨床研究を繋ぐ立場で、臨床に実際に役立つ研究を本腰いれてやりたいと思ったのが、基礎から臨床に移った動機です。この30年間に取り組んだリンパ球細胞表面機能分子(特に共刺激分子)の研究は、現実分子標的治療薬(抗体医薬)として臨床応用されるに至っています。癌治療の3大柱であった外科療法・放射線療法・化学療法に、今、第4の柱として免疫療法が確実に加わりつつあります。抑制性共刺激分子を標的とした免疫チェックポイント阻害剤です。これからの基礎研究は、ますます実用化やイノベーション創出につながる成果が期待されると考えます。そのためには、歯学を超えた基礎医学や臨床医学、生物学・工学分野の研究者と連携し、幅広い学際的な展開が必要となるでしょう。そのような展開が可能な柔軟な考え方をもつ若手の育成も重要な課題です。★歯科界は、歯科医療、歯科医学教育など多くの難題をかかえていますが、一人一人の力は限られていても、協力・連携を促進することで、大きなことを成し得ることが可能となるでしょう。その意味で、この歯学協は、大きな可能性を秘めた組織であると思います。基礎医学と歯学に半々という私のキメラ人生のおかげで、学術会議においても基礎医学と歯学という2分野にまたがったの活動となりますが、歯学協の活動に微力ながら貢献させていただけましたらと思います。どうぞ、よろしく願います。

特別会員 山口 朗教授



★東京歯科大学を卒業後、東京医科歯科大学大学院に入学し、病理学を学びました。その後、昭和大学歯学部口腔病理学教室、長崎大学歯学部口腔病理学講座を経て、2004年から東京医科歯科大学大学院口腔病理学分野を担当しております。★2011年10月より第22期・23期の日本学術会議会員として活動しています。日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理工・工学の全分野より選出された210名の会員と約2000名の連携会員で活動しています。重要な活動の一つに「科学に関する研究の連携を図り、その効率を向上させる」ことがあります。歯学系の日本学術会議の活動は、現在、4名の歯学系会員と32名の連携会員により行われており、歯学協とも緊密な連携を構築しています。★第22期の歯学委員会では、「我が国における歯科医学の現状と国際比較2013」を日本学術会議報告として2013年9月に発出しました。
(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h130902.pdf>)。本国際比較により、我が国の歯科医学の研究水準は国際的にも高いが、それを応用するための「技術開発水準」、「産業技術力」をさらに強化する必要があることが示されました。★また、我が国でも優れた歯学研究者を結集したall Japan体制で歯学界の喫緊の研究課題の解決に取り組む歯学研究拠点を創成する必要性が提唱され、歯学委員会が中心となってマスタープラン2014に「口腔疾患グローバル研究拠点の形成」を提案し、207件の応募課題より27件選出された「重点大型研究計画」の1つに選定されました。
(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t188-1.pdf> 予算化なし)。2017年に新たなマスタープランの策定が行われる予定ですので、歯学協とも緊密な連携を構築して、新たな計画を提案し、歯学界の発展に貢献したいと考えておりますので、よろしくお申し上げます。

特別会員 古谷野 潔教授



★歯学協では、日本学術会議会員を特別会員として理事会のオブザーバーとする制度があり、私は平成23年より学術会議会員を務めており、特別会員として歯学協の活動に参加させていただいています。★日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約84万人の科学者を代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって構成され、その主な役割は、Ⅰ. 政府に対する政策提言、Ⅱ. 国際的な活動、Ⅲ. 科学者間ネットワークの構築、Ⅳ. 科学の役割についての世論啓発です。日本学術会議には、30の学術分野別の委員会があり、その一つとして歯学委員会があります。私は、第23期(平成26年10月からの3年間)の歯学委員会の委員長を務めることになりました。引き続き、これから3年間、歯学協の活動に参加させていただきます。よろしくお申し上げます。★学術会議は、9年ほど前に大きな機構改革がありました。それ以前は、学協会から選ばれた代表者が学術会議会員として、選出母体の学協会と連携して活動していましたが、先の機構改革で、会員の選出は学協会から離れて、科学者間の推薦を基本に行われるようになりました。そうしたこともあり、ここ数年は学術会議と学協会の活動にも一定の距離ができていました。今期の歯学委員会では、学術会議と歯学分野の学協会の活動の連携を密にしていきたいと考えています。歯学協は、歯学分野の多くの学協会を会員とする協会ですので、歯学委員会としては、特に連携を深めてく所存です。★日本学術会議は、上述の通り、全科学分野の科学者を代表する機関ですので、歯学委員会の活動は他のすべての科学分野に開かれています。歯学協と学術会議歯学委員会との連携を通じて、歯科界から他の科学分野、政府、社会に広く情報を発信する窓口、そして政策提言の場として活用していきたいと考えています。

特別会員 丹沢秀樹教授



★日本学術会議・会員に就任いたしました関係で、このたび、特別会員を拝命いたしました。多くの歯学系学会の連携や学術・医療の発展を担う責任を共有させていただくことに心新たに緊張しています。加えて私は、日本口腔科学会・理事長として今期すでに理事に加えていただいておりますので、日本学術会議と日本口腔科学会の両方の立場を整理して、皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。★また、私は日本学術振興会学術システム研究センター・専門研究員、ならびに中央社会保険医療協議会・専門委員も兼務しています。日本の学術のさらなる発展、ならびに医療の健全な発展のために、微力ではありますが力を注いできました。★現在、主に財政状況の悪化と少子高齢化社会の進行を原因とした厳しい社会情勢の中で、頑張っているつもりです。是非、このような私の役割を理解いただき、相互に良い協力関係を構築して、日本の将来を明るくするためにいくらかでも皆さんのお役に立てればと願っています。誤った使い方や解釈ではない、真の「米百俵」という覚悟と将来への投資、そして真の思いやりと感謝に基づいた「共助」が現在の日本に最も必要であると感じているのは私だけではないと思います。★難しい話はこれくらいにして、私は日常、千葉大学においては大学院医学研究院口腔科学分野・教授、そして医学部附属病院歯科・顎・口腔外科・科長として日常の教育・研究・診療に勤んでおりまして、既に18年間の教授生活を送ってまいりました。私たちの教室の一番の特徴は「多様性」と「家庭的」ということです。大勢の全国の歯学部出身者が医局員ですし、一年を通じて季節感溢れる医局行事などで、その家族もまじえて賑やかに過ごしています。正月恒例の我が家における新年会などもその一例です。私も、医局員の誠実さと仲の良さが自慢でもあり、心から感謝もしています。皆様との今後の活動が実り多く、また、楽しいものであることを祈念しています。宜しく、お申し上げます。